

みやび通信

つれづれなるままに KAZU がつづる

* * みやび通信 第3号(通刊第39号) 2002(平成14)年12月25日 発行: KAZU *

第3号 オークランドの動物 KIWI と TUATARA

今回はニュージーランドの国鳥キウイとムカシトカゲ。実物を見たことはあるのですが、さすがにオリジナルの写真がありません。Webに載せるのにさしさわりのないコピーを使いました。少し映像が悪いですが、まあどちらも有名ですから、だいたいのイメージは描いていただけるでしょう。

KIWI



ニュージーランダーが自らを呼ぶ時にも使われる程、親しまれている鳥。ニュージーランドの国鳥にもなっている。また MADE IN NEW ZEALAND を示すマークにも使用されている。

単一種ではなくサウスアイランドブラウンキウイ、ノースアイランドブラウンキウイ、スチュアートアイランドブラウンキウイの3亜種を含むブラウンキウイとグレイト・スポットティッドキウイ、リトル・スポットティッドキウイの3種が知られている。

ずんぐりした体、長い嘴、頑丈な足を持っているが翼は羽毛にうもれてしまう程小さい。メスはオスより大きい。夜行性で果実、昆虫、ミミズなどを食べている。名前は鳥とは思えないオスの甲高い鳴き声、と言うより叫び声に由来している。

キウイの鳴き声

メスは自分の体重の1/3もある大きな卵を産み、オスが抱いて孵す。

さて、オークランドでは動物園で見ることができます。ただご存知のとおり夜行性で、昼夜を逆転させてありますが、出会えるチャンスは三回に一度くらい。大阪天王寺動物園の方が確率は高いです。

TUATARA (ムカシトカゲ)



ムカシトカゲ目唯一の生存種。形はトカゲに似ているが、その骨格は225万年前の化石の爬虫類に似ていて、恐竜よりも古い構造をしている。かつてはニュージーランド全土に分布していたが、今では北島の北東部の島々と南西部ステファン島周辺の島々だけに見られ、かつては単一種だと考えられていたが、最近の血液を使った研究で二種であることが発見された。

TUATARAのライフサイクルは実にのんびりしている。成熟したメスは4~5年に一度卵を産みます。交尾の後8ヶ月以上たって10~14個の卵を産み落とし土をかける。その時の気温に左右されるが8~16ヶ月後に孵化する。高温だとすぐに孵化するが孵化率が悪く、低温だと時間はかかるが孵化する数が多くなる。繁殖可能になるまで10年、その後40年位は成長を続け体長60~80cm、メスで450g、オスで700gにまでなる。100年は生きると言われている。

人間と共に侵入したネズミのために絶滅の危機にたたされており、国をあげて保護活動がなされている。

TUATARAも動物園で見られます。こちらは昼間も活動しますし、隠れ家に入っていても中からこっそり覗けるようになっており、結構見られる確率は高いです。大きさといい、姿といい、爬虫類好きには見飽きない動物です。